



～豊かな森を次世代へ～  
一般財団法人 日本熊森協会

**要望書**

〒662-0042

兵庫県西宮市分 1-4 (本部事務所)

Tel : 0798-22-4190 Fax : 0798-22-4196

E-mail : contact@kumamori.org

会長 森山まり子 会員数 17227 名

**<奈良市D地区のシカ捕殺を中止し、予算は被害防除に使うべき>**

**●旧奈良市D地区におけるシカ捕殺は無用の殺生となる**

**・世界に誇る神鹿文化**

奈良の神鹿文化は日本が世界に誇るすばらしい文化であり、このような他生物の生命尊重思想は自然保護の原点です。人とシカとの共存には様々な軋轢が双方に生じますが、お互いが譲り合ってこの国土で共存すべきです。祖先は質素で物のない生活を送りながらも、いろいろと知恵を絞って 1300 年間シカを守りシカと共存してきました。今、ここまで人々の生活が豊かになり科学技術が大きく発展した経済大国日本で、天然記念物である奈良のシカの問題を、捕殺という最大の生命軽視思想で解決しようとするなど、祖先に顔向けできない恥ずべき行為です。

**・無用の殺生はすべきではない**

しかも、たとえ 120 頭のシカを殺しても、隣接する京都府などから新たなシカが移動してきて、元の木阿弥となることは火を見るより明らかです。これでは無用の殺生となります。このような生命軽視事業に税金を使うことは、絶対に認められません。

**・西洋の野生動物管理思想は、種の大量絶滅をもたらしてきた**

残念ながら、現在、我が国の多くの動物学者たちは、祖先の野生動物とのすばらしい共存文化を忘れ、野生動物は人間が捕殺して頭数調整すべきであるという人間中心・科学盲信の西洋文化に取りつかれてしまっています。しかし、本来、自然界は人間が管理できるような簡単なものではなく、人間に管理は不可能です。このような自然管理思想は、自然や野生動物への無知から生じたもので、種の大量絶滅をもたらしてきました。神鹿文化こそ、奈良が守り世界に広めなければならない真の共存文化です。

**●税金は、シカ被害軽減に効果のある柵の強化など被害防除に使うべき**

わたしたちは、シカによる農作物被害が深刻な奈良市D地区へ赴き、被害状況を見たり、地元農家の方々の声を聞いたりしました。その結果、金網の強固な防鹿柵を設置している所では、シカの侵入がほとんどないことがわかりました。

地元には好き好んでシカを殺したい人はおらず、防鹿柵の強化に補助金をもらえるならその方が良く思っておられる方がほとんどのようでした。屋敷や田畑など、人間が使う所はしっかりと防鹿柵で守り、残りの土地はシカに開放してやるべきです。

この大地は人間だけのものではありません。全ての生き物たちに生きる権利があります。奈良県におかれましては、毎年鹿を捕殺し続けなければならない残酷な鹿対策より、確実に被害軽減に結びつく防鹿柵の普及と強化にこそ、予算を使ってください。